

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門基礎科目	403	2年	前期	臨床検査学科	必修	生化学実習 Practice in Biochemistry	45	1
担当教員								
松村 美紀	矢野 弘子							
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	○ ② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	○ ⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
生化学の講義で得た知識をより深く理解するために、実習を通して、生体成分の基本的な定性反応、定量法、分離法、検出法などを学ぶ。また、生体の化学反応はほとんどが酵素によって触媒されているため、基礎的な酵素反応の実習を行い、その反応メカニズムについての知識を深める。								
到達目標（授業目標）								
	① 糖、タンパク質など生体物質の定性・定量方法を理解し、その用途と性質を説明できる。							
	② タンパク質の精製方法について理解し、説明できる。							
	③ タンパク質の分離・検出方法について理解し、実施できる。							
	④ 酵素の特徴と性質（至適pH、至適温度、基質特異性、変性失活、平衡定数と酵素反応、活性化エネルギー、補酵素等）を理解し、説明できる。							
	⑤ 酵素の反応速度面での特徴を理解し、説明できる。							
	⑥ 生化学の実験で用いる基本的な実験器具・機器の取り扱いに慣れ、適切に使用できるようになる。							
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
回								
1回	実習の概要について説明する。また実験の進め方、実験器具・実験機器の扱い方について説明を行う。							
2回	糖の定性反応 (1) すべての糖に共通する定性反応と、特定の糖だけを検出する特異的反応を行い、検出方法の基本原則、糖の化学構造上の特徴を学ぶ。							
3回	糖の定性反応 (2) すべての糖に共通する定性反応と、特定の糖だけを検出する特異的反応を行い、検出方法の基本原則、糖の化学構造上の特徴を学ぶ。							
4回	アミノ酸・タンパク質の定性反応 (1) アミノ酸およびタンパク質を検出する方法の基本原則を理解し、分析に対する基本的考え方を学ぶ。							

